丸田荘の今後を考える会からのご提案

浴場機能を残しながら、
町と一緒に持続可能な施設へ

「残すか、なくすか」ではなく、「どうすれば残せるか」を一緒に考えたい

ご提案の流れ

1
私たちから
伝えたいこと

2
丸田荘
利用者の声

3
町営のまま
改善を目指す

4
今後の進め方
（まとめ）

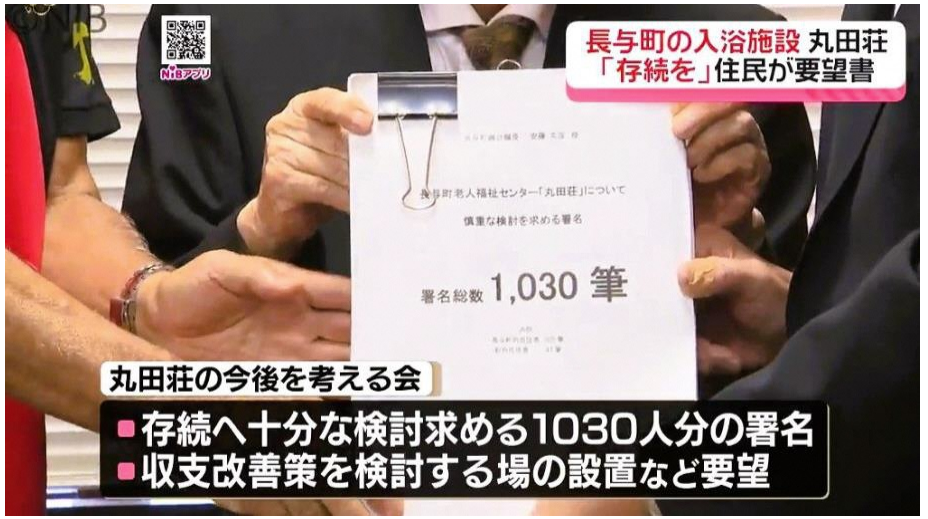
これは「単なる要望」ではありません

「残してほしい」という思いだけではなく、
「残すためには何を変えればよいか」を考えてきました

長与町と住民との「協働のご提案」です

1,030筆の署名

丸田荘について慎重な検討を求める
署名を集めました





※NIB長崎国際テレビ　ニュース映像より

丸田荘を必要としている方たちの声をご紹介します

単なる「お風呂」以上の役割

外出・習慣

日課・習慣として通う場所
閉館中は外出理由が喪失

人とのつながり・居場所

日常的な会話と交流の場
地域情報の重要な交換拠点
ひとり暮らしの孤立防止
体調変化の自然な見守り

健康増進

健康寿命を延ばす効果
要介護リスクの低減
認知症リスクの低減
うつ病発症リスクの低減
自宅の風呂掃除の負担軽減

施設廃止による「失うリスク」

- デイサービス未利用の高齢者の居場所が喪失
- 独居・高齢夫婦の「人と話す機会」の減少
- 外出・入浴・地域との接点の一斉喪失
- 体調変化に気付く「見守り機能」の低下
- 災害・非常時の地域資源（インフラ）の減少

高い満足度と、認知度の課題

94.7%

施設・サービスに満足

94.0%

施設の廃止に反対

※町の所管事務調査資料（令和7年度実績・利用者アンケート）

必要な人に届いていない現状

町民アンケートでは、丸田荘を知っている人のうち
88.9%が「利用したことがない」

だからこそ、改善の余地がある。
利用者を増やすことだけを目的にせず
「必要な人が利用しやすい施設」への
転換を。

生活に組み込まれた福祉的役割

週に5日利用する人

21.2%

自宅に風呂があっても通う理由

- ✓ 利用者の99.3%は自宅に浴室あり
- ✓ 日課としての外出機会の創出
- ✓ 心身の健康と認知症・うつ病予防

地域で担っている福祉的役割の評価が必要

まずは「町営のまま改善」を目指したい

a. 利用促進

必要な人に届く丸田荘へ

b. 1階の利活用

浴場 ＋ 地域の居場所

c. 収支改善

収入増 ＋ 支出見直し

「必要な人に届く丸田荘」へ

広報による実証効果

「広報ながよ」掲載後、1日あたりの利用者数が増加

↓

まだ利用者を増やす余地は十分にある

周知不足を解消し、ターゲット層に合わせたアプローチを

a-1 利用促進

利用時間の見直し



現行の課題

12:00 – 18:00

高齢者以外（子育て世代・勤労者）は利用が困難な時間設定



提案・他事例

14:00 – 20:00　（水・木）

西彼保健福祉センター遊湯館（13:00 - 20:30）
長崎市健康づくりセンター（10:00 - 21:00）



名称（愛称）の変更



現行の課題

「老人福祉センター」という名称が利用のハードルになっている

↓

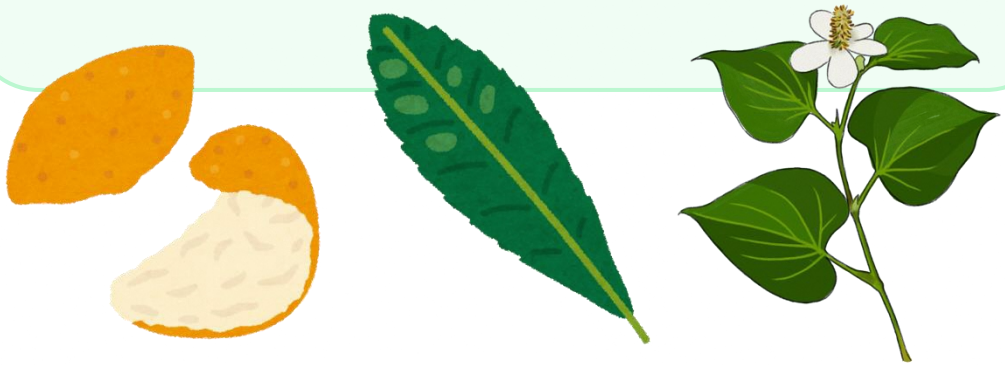
愛称「ミックンの湯（仮）」

親しみやすい愛称で、子育て世代の認知度向上と利用促進へ

定期的なイベント企画

季節の湯・変わり湯

ミカンの皮、枇杷の葉、ドクダミなど
身近な素材を活用した集客



ウォーキングイベント

町のウォーキングイベントのポイントに
道ノ尾温泉・喜道庵とのコラボ企画も



b. 1階の利活用

浴場 ＋ 地域の居場所へ

旧デイサービスの空きスペースを有効活用
新たな収入源の確保と、相乗効果による浴場利用の促進

地域の交流・賑わい創出

地元野菜の販売

産直品や加工品の販売スペース
バザー・マルシェにも開放



ミックングッズも♪

発表会・上映会

利用者層の拡大と交流



軽食販売・飲食解禁

湯上がりの滞在時間延長と交流



健康・介護予防の拠点化

健康体操・健康講座
ラジオ体操・テレビ体操の録画活用など、コストをかけない仕組み

健康器具の再配置
町民体育館の器具の一部移設、卓球台やオセロも

住民からの寄付活用
自宅で眠る健康器具やカラオケセットの寄付受け入れ

民間事業者との連携

近隣店舗「つむぐ」との協働

- ナノミストサウナの設置・移管検討
- 実績：2年間で延べ2,666人の利用



他自治体の事例

大阪府泉大津市：包括連携協定事業



福祉・就労支援との連携



B型就労支援施設としての活用

デイサービス跡地を「作業所」として機能転換
浴場運営を支えるプロダクト製造拠点へ

変わり湯用の入浴剤作り、みかんの皮を利用したクレンザー作り

収入を増やす ＋ 支出を見直す

持続可能性を高めるための両輪のアプローチ

利用料金の適正化

現在の利用料金

一般町民：200円
高齢者等：100円

利用者からも値上げ容認の声

署名協力者等から「存続のためなら値上げもやむを得ない」との声
過去（平成29年）の改定時も、一時的な減少後に利用者数は回復

他自治体の事例

西海市社会福祉協議会
西彼保健福祉センター遊湯館
　一般市民：200円
　高齢者等：100円

長崎市健康づくりセンター
　一般市民：460円
　高齢者等：230円

クラウドファンディング・ふるさと納税の活用



臨時支出の外部資金調達

ボイラー購入費などの大型臨時支出は
クラウドファンディングやふるさと納税で
町内外から支援を募る

その他のコスト見直し案



温泉水の購入

他の施設から温泉水を購入



業務委託の内製化連携

1階に作業所が入った場合、受付や清掃業務も委託



キッズスペースとして開放

雨天時や酷暑日の遊び場



福祉施設から公共施設への転換

町の予算の組み立てなおし

町営以外の選択肢

その他の運営スキーム

指定管理者制度

施設所有は町のまま、民間企業やNPO法人に運営を委託しノウハウを活用

低額・無償譲渡

意欲ある民間・地域団体へ施設を譲渡し、完全な民間運営へ移行

公益信託の活用

施設維持のための基金を創設し、信託スキームで管理・助成を行う

まとめ

私たちからのご提案「丸田荘再生プロジェクト」

「町営か民営か」の二者択一ではなく、複数主体の役割分担へ

町	公共施設としての目的・安全・公平性を担保する
住民	利用・アイデア・地域のつながりを担う
福祉法人	福祉・就労・居場所づくりのノウハウを持ち寄る
民間事業者	運営・設備・温浴など専門性を提供する
地域団体	利用促進・交流・地域資源との連携を担う

丸田荘再生プロジェクト：3つのステップ

STEP 1
まず試す

町営のまま改善
・利用促進
・赤字削減
・1階利活用

STEP 2
1～2年実証

目標設定と指標検証
・利用者数
・収支
・満足度
・安全面

STEP 3
次の運営を判断

結果をもとに再検討
・町営継続
・指定管理
・民間連携

「福祉施設」から、「地域の資源」へ

若い世代も関われる町おこし
高齢者専用の施設から、世代を超えて地域が関わる多世代交流の場所へ転換

- ✓ **子育て世帯が参加できるイベントや地域活動の創出**
- ✓ **福祉・健康・交流・地域経済を組み合わせた機能拡張**
- ✓ **「赤字だから縮小」ではなく、役割を再設計し価値を高める**

今日出したいのは「答え」ではなく、次に向けた「問い」です

Qどのアイデアなら、町として検討できるか？

Qどのアイデアには、追加調査が必要か？

Q誰の力を借りれば、実現可能性が高まるか？

Q実証をする場合、何を目標・指標にするか？

Q次回までに、町・住民・専門家それぞれが何を調べるか？

丸田荘を、未来につなぐために。

住民・行政・議会・福祉・民間・地域が、

それぞれの知恵と経験を持ち寄って、

「どうすれば存続できるのか」を考える

本日はご清聴ありがとうございました